

## コマカード作り

刈谷市立富士松北幼稚園（愛知県刈谷市）

[4歳児]

コマカード作りに興味をもった子どもたちが、四角いケント紙に穴を開け（コマの軸を通す所を切り落とす）、ペンで色を塗ったり模様を描いたりしてカードを作った。そのカードをコマ（手回し木ゴマ）の軸に通して回し「色がきれい」「丸い形に見える」などと喜ぶ子どもたち。保育者は、友達と一緒にいろいろやってみる中で遊びの楽しさを感じ、繰り返し取り組みながら、試したり発見したりする面白さを味わって欲しいと願っていた。

### 「ねえ、みんな見て！」

A児は、B児にカードの作り方を教えてもらい、カードを茶色と黒で塗りつぶした。「見て！こんなのができた。今から回すね。ゴーシュー！」「わあ、すげえ。黒になった。ねえ、みんな見て」と興奮しながら友達に言う。

C児「すごいじゃん」 B児「黒になった」 D児「綺麗じゃん」などと言う。

A児 満足そうな顔をしている。

保育者「あれっ黒になったの？さっき茶色もなかったっけ？」

A児「茶色もあるよ。ほら！」と言ってカードを見せて、再び回す。  
「でも、回すと（茶色は）ない」と、得意気に言う。

保育者「本当だ、茶色もあるのに不思議」と受け止める。

A児 しばらくして「見てて」とまた、コマを回し始める。

保育者「あれ？なんか今、ピンク色も見えた気がする」

A児「さっきのカードに描いたんだよ。すごいでしょ」と見せる。

C児「Aちゃん、ピンク描いたんだよ、だからこうなるんだよね」

保育者「面白いね、いろんなこと思いつくからすごいなあ」と感心する。その後みんな、自分が作ったカードに少しずつ色を加えては回し、その変化を面白がっていた。



### 「だって、知ってるもん」

C児「ねえ先生、見てて。行くよ」とコマを回ししばらくして止める。そして同じカードに開けられているもうひとつの穴にコマの軸を通して再び回す。

保育者「あれ？」と驚く。カードの大きさが明らかに違って見える。

C児「すごいでしょ。こっち（小さい穴）でやると小さくて、こっち（大きい穴）でやると大きくなるんだよ」

保育者「ええっ？そうなの？だから大きさが違って見えたの？」

C児「そうだよ。見てて」と言う。友達も興味津々で見る。

D児「すごい！」

F児「すごいね。だって穴の大きさが違うんだもんね」

保育者「よく気付いたね」などと認めると。

C児「だって知ってるもん！」と誇らしげに言う。

保育者「えっ？なんでこんなすごいこと知ってるの？」

C児「だってやってたもん」

保育者「そうか、いろいろやってたから気付いたんだあ。  
ほんとすごいね」



[考察]・保育者が、幼児のこだわりや発見したことを言葉に引き出すようにかかわることで、自分のしたことが明確になり、いろいろ試す楽しさが実感できたのだと思われる。

・一人一人の考えたことを認めたり、試す姿を楽しみにしたりする保育者のかかわりは、幼児のやってみようとするワクワク感を引き出し、新たな発見を楽しむ姿につながったと思われる。

(みどころ) 自分の発見を保育者や友達に認められ、満足感を味わい、それが次の取り組みへの意欲となっています。コマカードは、子どもが切ったり、色を塗ったりして様々に工夫できる教材です。幼児なりに「こうしてみよう」「こうしたらどうなるかな？」とじっくりと考えたり試したりして自分なりに追究していく経験ができました。このような過程から「科学する心」の育ちを読み取ることができます。